

# 小麦、菜種からバイオ燃料

# 十勝を「緑の油田」に



【清水、豊頃、帯広】小麦から作ったバイオエタノールで車が田園地帯を疾走し、菜種を原料にしたバイオディーゼル燃料（BDF）でトラクターが畑を耕す。こんな光景が近い将来、十勝管内で現実のものになりそうだ。農産物由来のバイオ燃料を製造する大型プラントが清水町と豊頃町に相次いで建設されるからだ。近い将来、国内有効の農業地帯が「緑の油田」としても脚光を浴びそうだ。  
（文・鬼頭良幸、写真・守屋裕之、中村祐子）

BDFの原料として栽培されている菜種。数カ月後には黄色い菜の花畑になり、観光資源としても期待される十勝管内更別村

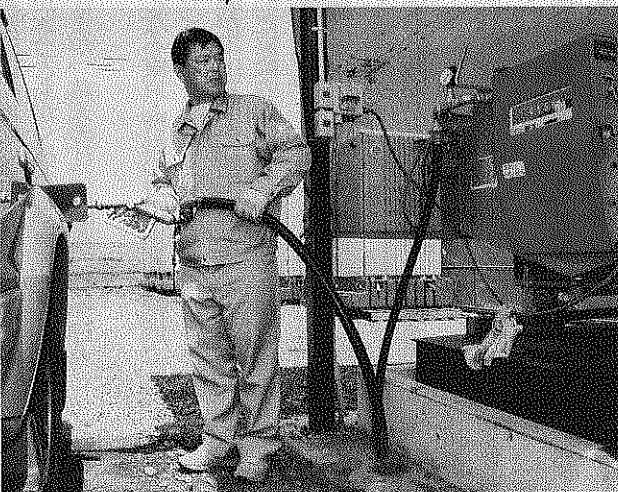
## 清水、豊頃 大型プラント建設



2007-6-23(土、日)



清水町では「Aケル」設立の新会社「北海道バイオエタノール」（札幌）が、カソリン代替燃料や規格外小麦。ヒート産できる」と期待する。原料バイオエタノールの国内一歩分バイオエタノール財団法人十勝圏振興機構は昨年、バイオエタノール最大プラント（年間生産能力一千万キログラム）を十勝地区農協組合長会の「有塚利宣会長は「余った広市の十勝産業振興センター」に導入。小麦やピー



廃食用油を原料としたBDFの給油施設。一般の軽油より1リットル10円ほど割安だ。十勝管内更別村

小麦から製造したバイオエタノール。日本酒のような甘い香りがする。帯広市の十勝産業振興センター

「農家が農業機械に使う燃料を自給する」「燃料自給型農業」を提案していきたくて話している。

現在、春先にまいた種が地表に芽を出し、農業機械で雑草を取り除く作業が行われている。エコーRCの為広正彦専務は「農家が農業機械に使う燃料を自給する」「燃料自給型農業」を提案していきたくて話している。

清水町では「Aケル」設立の新会社「北海道バイオエタノール」（札幌）が、カソリン代替燃料や規格外小麦。ヒート産できる」と期待する。原料バイオエタノールの国内一歩分バイオエタノール財団法人十勝圏振興機構は昨年、バイオエタノール最大プラント（年間生産能力一千万キログラム）を十勝地区農協組合長会の「有塚利宣会長は「余った広市の十勝産業振興センター」に導入。小麦やピー

トからの効率的な製造方法を探っており、成果は清水町の新プラントで生かされる。

一方、豊頃町では、「エコーRC」（帯広）が軽油代替燃料BDFの道内最大プラント（年間生産能力七百五十キログラム）を八月に着工、本年度中にも一部稼働させる。エコーRCに出資する更別企業（更別）などは、既に廃食用油を原料にBDFを製造、独自の給油施設で契約した三百以上の個人・団体に販売しているが、豊頃町の新プラントでは廃食用油のほか、菜種も原料に加える。BDFを一キロ生産するには、菜種二・三分が必要。エコーRCは今年、農家八戸に依頼して約三十軒で菜種を栽培。現在、春先にまいた種が地表に芽を出し、農業機械で雑草を取り除く作業が行われている。エコーRCの為広正彦専務は「農家が農業機械に使う燃料を自給する」「燃料自給型農業」を提案していきたくて話している。